

## 研究テーマ：グローバル人材を育む国際理解教育

### I 東京都海外子女教育・グローバル教育研究会について

◇本会は、在外施設派遣経験の教員が中心に組織する。  
 ◇本会は、東京都の国際理解教育、帰国幼児・児童・生徒の教育、在外の幼児・児童生徒の教育の充実・発展を願い教育研究活動を次の(1)～(5)を通して推進することを目的とする。

- (1) 在外教育施設から帰国した教員の歓迎会
- (2) 在外教育施設へ派遣を希望する教員への研修会
- (3) 在外教育施設での活動報告
- (4) 在外教育施設へ赴任する教員の壮行会
- (5) 東京都のグローバル教育を牽引する研究活動

### II 主な活動内容

◇国内外の国際理解（現地理解）の実態を明らかにするとともに、東京都の「海外帰国子女教育」「国際理解教育・グローバル教育」「外国人児童・生徒教育」の充実を図る。

#### 【研修内容】

- 4月 役員研修会、東京大会実行委員会、総会準備、研修会企画
- 5月 総会・講演会、派遣希望者相談会・学習会
- 6月 在外教育施設派遣研修会（帰国者と研修参加者との実践事例研修会）  
役員研修会、東京大会実行委員会
- 7月 役員研修会、東京大会実行委員会、帰国報告会企画 等  
在外教育施設派遣研修会 模擬面接練習・東京大会実行委員会
- 8月 東京大会実行委員会・第50回全海研全国研究大会
- 9月 在外教育施設帰国報告会（1）、役員研修会  
講師：野崎 篤子（東京都教職員研修センター指導主事）  
報告者：桐口 雄三先生（上海日本人学校浦東校）  
清水 久勝先生（マニラ日本人学校）
- 10月 在外教育施設帰国報告会（2）  
東京都立竹早高等学校 村澤 匠先生（深圳日本人学校）  
練馬区立開進第三中学校  
根本 健二先生（香港日本人学校香港校）
- 1月 役員研修会、派遣研修会企画
- 2月 役員研修会、来年度在外教育施設派遣者研修会
- 3月 役員研修会、総会資料検討



### III 学校における国際理解教育（全国海外子女教育国際理解教育研究大会発表から）

◇多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成 国際理解教育の実践 小平市立小平第五小学校 主幹教諭 堀裕樹

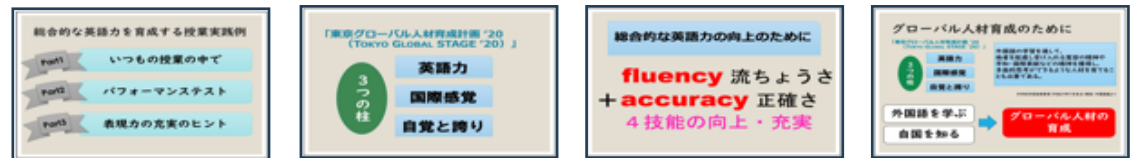


学級に、日本語が全く話せない子が編入してきた。特別な配慮を要する子でもある。言葉は通じない、日本の学校の過ごし方やルールも分からないという状況だったが、学年やクラス全員が、本当に暖かく迎え、お世話をしてあげるといってではなく、本当に自然と一緒にいて、フォローして、毎日一緒に笑っている。最初から子供たちには壁はなかったようだった。本当に素敵な姿だと思う。一緒に移動教室にも行った。写真でも分かるように、この笑顔が毎日見られることは本当に嬉しいことである。これも国際理解教育をすすめてきて、違いを認め合い、意見や価値観を受容できる体験をしてきたからだと思う。国際理解教育で子供が変わる!のだ。（発表原稿より一部抜粋・変更）

◇主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成

#### 中学校英語スピーキングテストの概要 および 総合的な英語力を育成する授業の実践

葛飾区立常盤中学校 校長 平岡 栄一 調布市立調布第五中学校 指導教諭 加藤 真由子  
 《中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の概要》 《総合的な英語力を育成する授業の実践》



事例として、「おすすめの日本語を紹介する」、「ピーターラビットを朗読して感想を伝える」、「ピクチャーディスクリビング」、「調べ学習のプレゼンテーション」、「物語のグループスキット」、「私の表現集づくり」、「英文読書」他を紹介し ESAT-J」との関連も示す。また東京都中学校英語教育研究会の活動も一部紹介する。同会は毎年多くの研究や研修会を実施しており、その一部には会員以外の一般の教育関係者等を対象に含むもの、対面とオンラインのハイブリッドで開催され、国内各地や海外から参加できるものもある。本発表後も児童・生徒ともに英語の授業やさまざまな関わりを通して、児童・生徒も教師も主体的に学び続け、総合的な英語力を高め、世界の人々と関わり、誰もが充実した人生を歩んでゆくための授業づくりを引き続き皆様と共に模索していく。（発表原稿より一部抜粋・変更）

## 【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都海外子女教育・グローバル教育研究会】

### ◇ 主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成 ～外国人との交流活動を通して～

府中市立府中第五小学校 主任教諭 西野明恵

- 1 5年生：TGGでの英語体験・イングリッシュキャラバン
- 2 6年生：地域外国人の府中市への観光案内、TGGでの英語体験、台湾小学生との交流活動

#### ★「どの学校でも」「継続できる」にするための問題

：予算、学校規模、ゲスト人数の確保、時差によるスケジュール調整、ネット環境、同市内で時期が重なると人員が不足すること、カリキュラムマネジメント



#### ★今後、取り組みたいこと

：時差の少ない外国の小学生との交流、アメリカンスクールの子供たちとの交流、低学年からの外国人や英語への親しみの機会、5年生での外国人との交流活動の設定、他教科等との連携（発表原稿より一部抜粋・変更）



### ◇ 東京都海外子女教育・グローバル教育研究会の取り組みについて（発表原稿より一部抜粋・変更）

町田市立小山ヶ丘小学校 主任教諭 師尾勇生

- (1) 在外教育施設から帰国した教員の歓迎を兼ねた在外教育施設での教育活動に関する情報共有会の実施
- (2) 在外教育施設での勤務を希望する教員への研修会（鳥しょ等の方の需要もあり、ハイブリッド型）
- (3) 在外教育施設におけるグローバル教育に関する教育活動報告会
- (4) 在外教育施設へ赴任する教員の壮行会を兼ねた赴任直前の研修会（在外会員のオンライン講義）
- (5) 東京都のグローバル教育を推進するための研究活動（LINEオープンチャットを使った海外との連絡）

## IV 在外教育施設での研究実践～帰国報告会から

### ◇ 忘れてはならぬ戦争の傷跡を胸に（発表原稿より一部抜粋・変更）

清水 久勝 シニア派遣(現所属校なし) フィリピン・マニラ日本人学校

- 1 はじめに  
マニラへの派遣が決まった際、30年前のマレーシア派遣時と同様、東南アジアという言葉に喜びとともに戦争加害者としての日本の立場を自覚した。
- 2 フィリピン国内に残る心の傷  
フィリピンには「勇者の日」という祝日があり、これは「バターン死の行進」を忘れないために設けられており、この歴史について深く知った。また、手に入れたフィリピンの教科書では、日本軍の占領時代が詳細に記述されており、その深刻さを実感した。生徒の一人であるホセ君の話からも、戦時中の苦勞が現代にまで影響を及ぼしていることが明らかだった。さらに、戦前日本人が開拓したカリナン地区を訪れた際、日本人とフィリピン人の子供たちが長い間日本名を名乗れなかったことを知り、その苦勞を深く理解した。
- 3 さいごに  
東南アジアにある日本人学校へ派遣されて、我々日本人が加害者であった歴史があったことを忘れることなく、赴かねばならないと思わずにはいられない2年間であった。これから派遣される方々も、そういった歴史の上に日本人学校を開くことを許してくれた国々の人々への感謝を忘れずに赴任していただければと思っている。

### ◇ 帰国報告

桐口 雄三 昭島市立富士見丘小学校 中華人民共和国 上海日本人学校浦東校（小学部）

- 1 多文化・多言語環境における指導能力 ①【児童の生活環境・経験】②【多様なバックグラウンドをもつ児童への指導】③【帰国後の指導】
- 2 カリキュラム・マネジメント能力
- 3 学校の管理・運営能力
- 4 さいごに

コロナの影響で在任期間が2年半となってしまった。コロナとともに渡航し、コロナ終息とともに帰任という形になった。（中略）しかし、制限のある中で何とかしようと職員や家族と協力したことは大きな財産になった。（中略）何事も「前向きに捉え」、「臨機応変」に対応する極限を味わったようにも感じるが、これは、在外教育施設に派遣される上で最も求められる姿勢である。（発表原稿より一部抜粋・変更）

### ◇ 国際理解教育推進における在外教育施設の重要性について

東京都立竹早高等学校 村澤 匠 深圳日本人学校

私は日本のイノベーションの減速化やグローバル社会において明らかに後塵を拝しているという焦燥感をもって、その理由と国際的な子弟の教育というものに強い興味をもってこの研修に応募した。研修を経て、今日までの私の未熟な経験から導き出した一つの結論は自他理解を促進することによる『寛容さ』を身に付けること、そしてそのことが柔軟な思考を生み、様々な分野からの多様なアプローチによる国際社会での競争力やイノベーションが生まれてくるのだということだ。そのために、体験型教育を生活基盤からもっている在外教育施設の役割は非常に重要なものであると同時に、日本人学校の在り方も旧態依然とした日本式の教育に固執しすぎではないだろうかという新たな課題も見つかった。我々教育者も世界的な教育手法に目を向け、国際社会で活躍できる子供たちを育てていくことにより、教育界の新たな価値を高め優秀な人材を獲得すること、すなわち子供たちにも大いに還元することができるのではないだろうか。（発表原稿より一部抜粋・変更）

### ＜連絡先＞

団体名		東京都海外子女教育・グローバル教育研究会
代表者	所属	府中市立府中第五小学校
	職 氏名	校長 森嶋 正行
	連絡先	042-361-9005
事務局	所属	町田市立鶴川第三小学校
	職 氏名	主幹教諭 野上 光一
	連絡先	042-735-2127